

第2章 ワンヘルスの実践



第2章 ワンヘルスの実践

1 目指す姿

次世代につなぐ 人と動物の健康及び健全な環境が調和した社会

これまで述べてきたように、人獣共通感染症、生物多様性の損失、地球温暖化といった、人と動物、そして環境の各分野にまたがる問題を解決するには、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守るというワンヘルスの理念に基づく行動、そして活動が必要となります。

ワンヘルスの理念に基づく行動及び活動は、行政や研究者、専門家等のみが行うものではなく、私たち一人一人がその理念を理解し、行うべきものです。

具体的には、利便性や経済の発展に重きをおいた行動や活動を、人と動物の健康と環境の健全性に配慮したものに変えていく必要があります。

本計画に掲げる施策や取組を展開することにより、県民及び事業者がワンヘルスの理念に基づき自主的に行動し、活動することで、人と動物の健康及び健全な環境が調和した社会を構築し、これを次世代につないでいくことを目指します。

2 施策の方向性

第1章に示したワンヘルスに係る各分野の課題を解決し、1に掲げた「目指す姿」を実現するために、次の6つの基本方針を設定しました。

[6つの基本方針]

- ①「人獣共通感染症対策」
- ②「薬剤耐性菌対策」
- ③「環境保護」
- ④「人と動物の共生社会づくり」
- ⑤「健康づくり」
- ⑥「環境と人と動物のより良い関係づくり」

(1) 6つの基本方針

① 人獣共通感染症対策

人獣共通感染症については、病原体を排除する感染源対策、病原体の侵入経路を遮断する感染経路対策、予防接種等個体の抵抗力を増強する宿主対策が重要となります。このことを踏まえ、医師、獣医師、環境分野の専門家、そして行政等が一体となって発生を予防するとともに、発生した際のまん延を防止する体制を整備します。

感染症対策において、発生動向調査はその基盤となるものであり、人の発生動向監視体制の整備に加え、感染症の発生源又は媒介動物となるリスクが十分に解明されていない、愛玩動物や野生動物の発生動向調査を実施します。

また、新興感染症発生時には、まだ有効な治療薬等がないことが多く、迅速にその研究開発を進めることが重要であることから、平時から、県と民間企業等が連携して研究を進めることができる体制を整備します。

さらに、人獣共通感染症の発生予防とまん延防止を図るためには、県民一人一人が、日頃から手洗いなど基本的な感染予防対策を行うとともに、動物との適切な関わり方を理解し、行動することが重要であることから、こうした知識の普及啓発を行います。

② 薬剤耐性菌対策

2016（平成28）年、国が取りまとめたアクションプランでは、①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力の6つの柱ごとに方針と取組内容が示されました。

このうち、本県では、①県民や県内の医療、獣医療、農林水産業等各分野への普及啓発、②国の動向調査への協力や、県内の状況を把握し、必要な対策の指標とする動向調査、監視、③各分野における感染予防対策の向上を図る感染予防、管理、④各分野における抗微生物剤の適正使用の4点について、アクションプランを踏まえ、国と連携して取組を進めます。

③ 環境保護

生物多様性は、私たちの暮らしに様々な恵みをもたらすものであるとともに、自然災害の防止や軽減にも寄与しており、人と動物の健康や人と自然との共生の確保にもつながることから、持続可能な社会を実現する上でも、極めて重要なものです。このため、「福岡県生物多様性戦略」に基づき、生物多様性の保全に関する取組を推進します。

地球温暖化は、気温や海水温の上昇や異常気象、生態系などの自然環境に変動をもたらし、その変動は、社会や経済にも大きな影響を及ぼします。このような気候変動の影響に対処するため、「福岡県地球温暖化対策実行計画」に基づき、温室効果ガスの削減はもとより、既に現れている現象や中長期的に避けられない影響に対して適応するための取組を進めます。

大気、水、土壌等は、あらゆる生物が共有しており、その汚染は、生物多様性や生態系へも

影響を及ぼします。これらの環境リスクを低減するため、良好な大気環境の確保、流域の特性に応じた水環境の保全と健全な水循環の確保、土壌環境の保全などに取り組みます。

また、こうした取組について、さまざまな機会を通じて、県民や事業者に普及啓発を行います。

④ 人と動物の共生社会づくり

愛玩動物を飼養することは、身体的、精神的な健康の増進に寄与すると言われていた一方で、安易な飼養や遺棄、虐待、悪質な業者による販売などが後を絶たず、社会問題となっています。愛玩動物の管理について、終生飼養や不妊去勢手術の実施など適正飼養の普及啓発等を推進します。

また、近年、自然災害が頻発し、災害への備えが大きな社会問題となる中で、家族の一員である愛玩動物の同行避難が課題となっていることから、飼い主等への啓発とともに災害発生時等に備えた体制を整備します。

愛玩動物は、人の心の健康維持や生活の質の向上等に貢献しており、様々な分野でその活用を図っていきます。

野生動物については、感染症対策の観点からも、適切な関係性を維持する必要があります。野生動物の個体数の管理等とともに、緩衝帯となる里地里山や、生息域となる森林等の保全、回復を推進します。

⑤ 健康づくり

自然とのふれあいは、自然に対する価値観や保全意識に寄与するとともに、身体・精神・社会的な健康維持(例えば、うつ抑制、ストレスの低減等)に効果があると言われています。自然とのふれあい活動を推進するとともに、自然とのふれあいの場として、自然公園等を整備します。

また、愛玩動物とのふれあいは、人の心に安らぎを与え、心身の健康に効果があるといわれています。医療や福祉、教育等様々な分野において、愛玩動物とのふれあいを通じた健康づくりを推進していきます。

⑥ 環境と人と動物のより良い関係づくり

人の健康は、健全な環境の下で生産された健康な家畜その他の安全な農林水産物等を食べることで維持されています。

安全な農林水産物の生産等を図るとともに、農林水産物の生産及び消費の各段階における環境負荷を低減するため、環境に配慮した農業や、家畜飼養等を推進します。

また、食の安全・安心や環境への負荷の軽減にもつながる地産地消や農林水産物への理解向上につながる食育について県民へ普及啓発を行います。

さらに、微生物の中には、人や動物と共生し、その健康に貢献する微生物も存在することから、その活用を図ります。

(2) 行動計画の体系図

1に掲げた「目指す姿」を実現するために、6つの基本方針に、ワンヘルスの理念の普及や中核拠点の整備等を推進するための「ワンヘルス実践の基盤整備」を加えた7つの柱を設定します。

本県では、この7つの柱ごとに具体的な施策を展開し、ワンヘルスの実践に取り組んでいきます。

7つの柱	取組事項
1 人獣共通感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 発生予防（平時の対応） (2) まん延防止（患者発生時の対応） (3) 動向調査、監視 (4) 研究開発、創薬 (5) 普及啓発
2 薬剤耐性菌対策	<ul style="list-style-type: none"> (1) 動向調査、監視 (2) 感染予防、管理 (3) 抗微生物剤の適正使用 (4) 普及啓発
3 環境保護	<ul style="list-style-type: none"> (1) 生物多様性の保全 (2) 地球温暖化対策 (3) 大気・水・土壌環境保全対策 (4) 普及啓発
4 人と動物の共生社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 人と愛玩動物の関係性の向上 (2) 災害発生時等に備えた体制整備 (3) 人と野生動物の共存
5 健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自然とのふれあいを通じた健康づくり (2) 愛玩動物とのふれあいを通じた健康づくり
6 環境と人と動物のより良い関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 健全な環境下における安全な農林水産物の生産等 (2) 生産・消費における環境への負担の低減 (3) 地産地消・食育の推進 (4) 有益な微生物の活用
7 ワンヘルス実践の基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> (1) 啓発活動の推進 (2) 教育の推進 (3) 中核拠点の整備等

(3) SDGsとの関係

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、2015 (平成 27) 年 9 月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 (令和 12) 年までの達成を目指す国際目標です。17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



「人の健康」「動物の健康」「環境の健全性」を一体的に守るというワンヘルスの理念は、SDGs の 17 のゴールの多くに関係しています。

特に、ゴール 3 「すべての人に健康と福祉を」をはじめ、ゴール 6 「安全な水とトイレを世界中に」、13 「気候変動に具体的な対策を」及びゴール 15 「陸の豊かさを守ろう」などに深くかかわっています。

7つの柱とSDGsの関係

7つの柱	SDGs 17のゴール
人獣共通感染症対策	    
薬剤耐性菌対策	    
環境保護	          
人と動物の共生社会づくり	    
健康づくり	   
環境と人と動物のより良い関係づくり	      
ワンヘルス実践の基盤整備	             